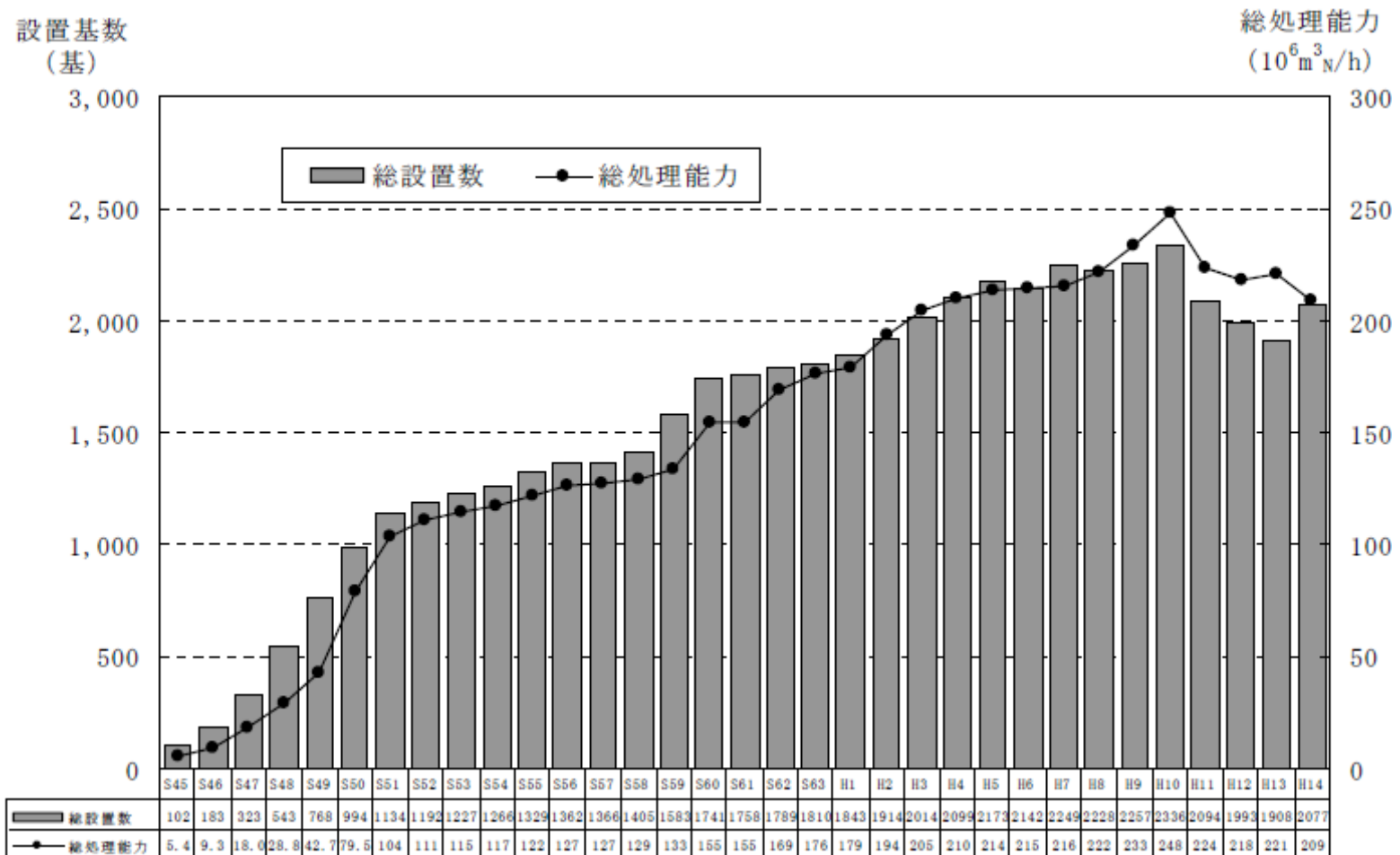


資料4

参考資料

(1) 排煙脱硫装置 (SO_x対策機器) の普及状況

- 各事業者における硫黄酸化物 (SO_x) 排出基準の達成に資する対策機器 (排煙脱硫装置) の導入が進んでいる。(次図参照)
- 排煙脱硫装置の導入状況は、平成14年度末現在で、設置基数2,077基、総処理能力2億9百万m³N/h、昭和48年(543基、28.8百万m³N/h)比では、設置基数で約4倍、処理能力で約7倍となっている。



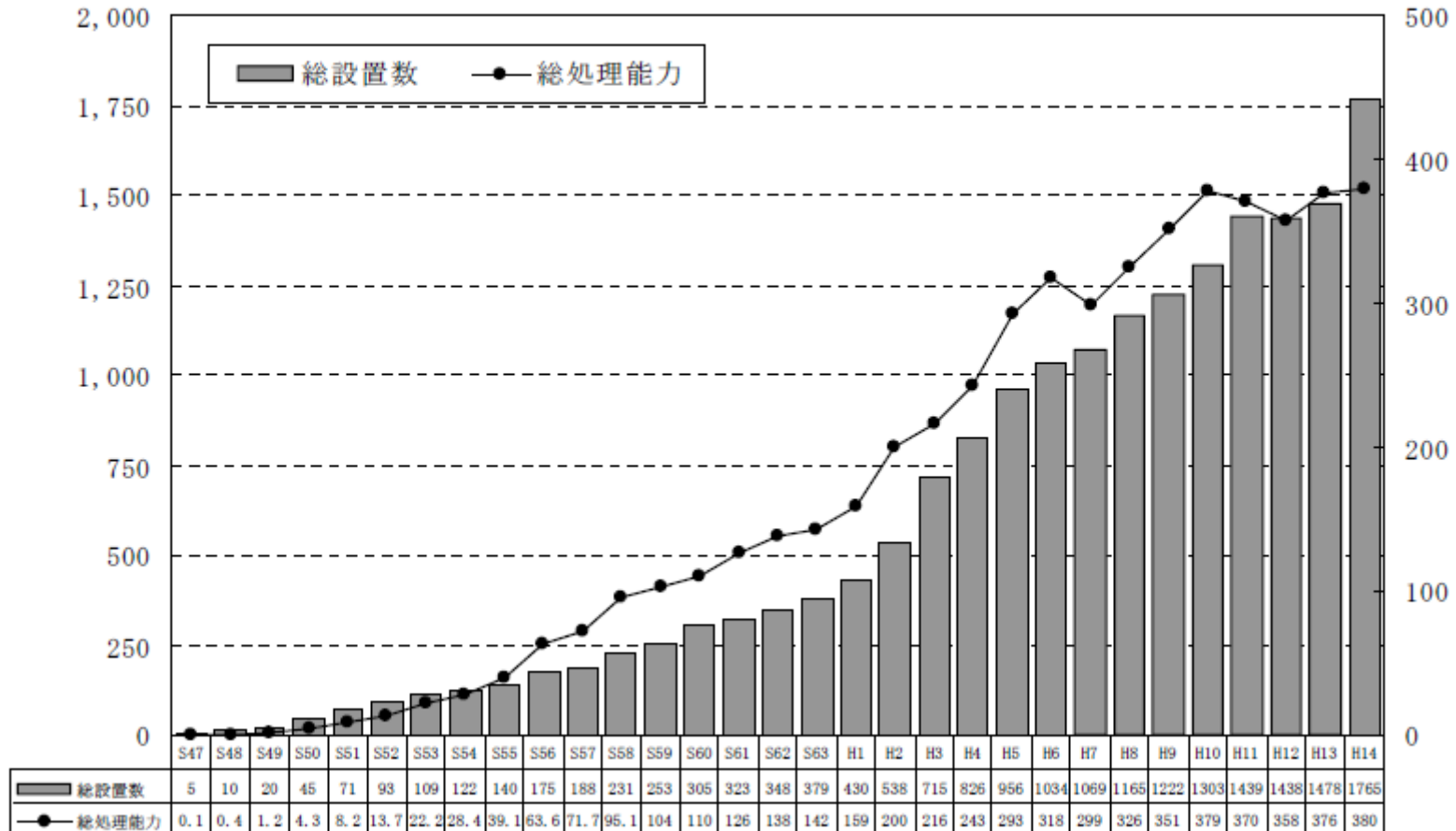
【出典：環境省・平成16年度大気環境に係る固定発生源状況調査】

(2) 排煙脱硝装置(NO_x対策機器)の普及状況

- 各事業者における窒素酸化物(NO_x)排出基準の達成に資する対策機器(排煙脱硝装置)の導入が進んでいる。(次図参照)
- 排煙脱硝装置の導入状況は、平成14年度末現在で、設置基数1,765基、総処理能力3億8千万m³N/h、昭和48年(10基、40万m³N/h)比では、設置基数で約177倍、処理能力で約950倍となっている。

設置基数
(基)

総処理能力
($10^6 \text{m}^3 \text{N/h}$)



【出典：環境省・平成16年度大気環境に係る固定発生源状況調査】

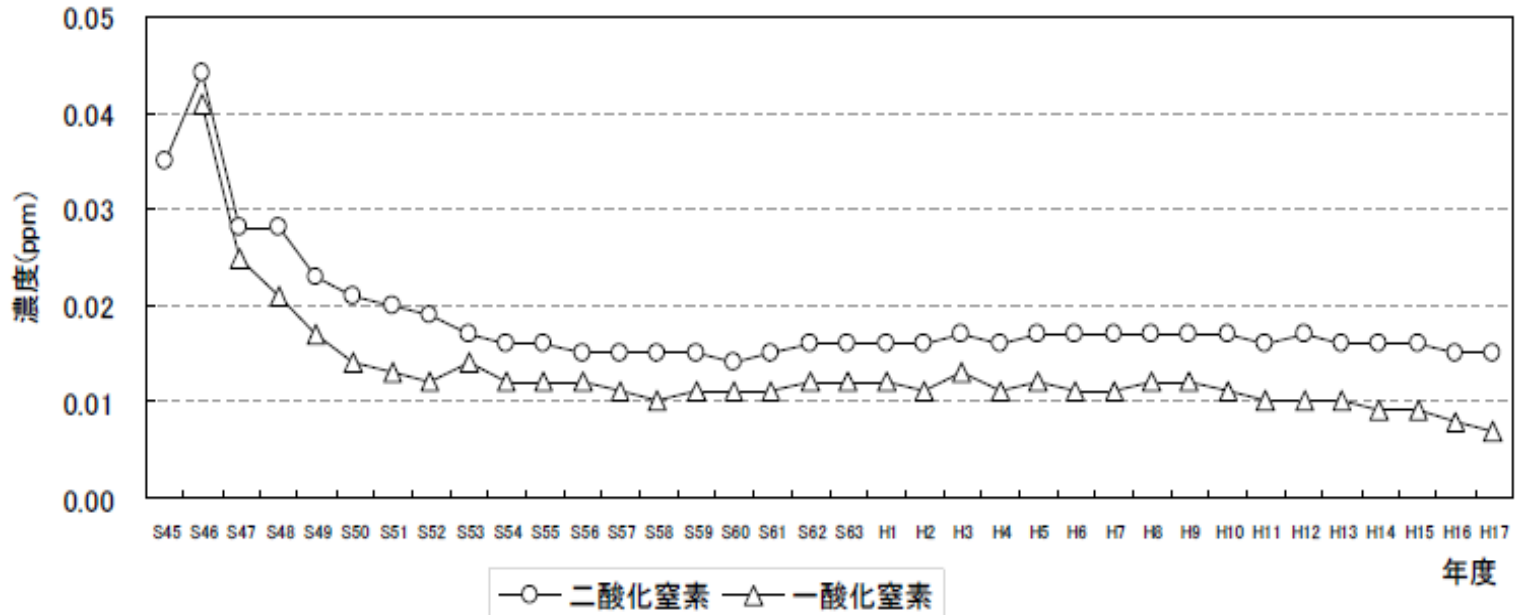
(3) 大気中の窒素酸化物(NO_x)に係る 環境基準の達成状況

- 二酸化窒素及び一酸化窒素濃度の年平均値は、工場立地法制定当時と比し大きく改善しており、近年の一般環境大気測定局における環境基準達成率は、ほぼ100%となっている。

	昭和48年	平成17年
二酸化窒素濃度	0.028ppm	0.015ppm
一酸化窒素濃度	0.021ppm	0.007ppm

大気中の二酸化窒素及び一酸化窒素濃度の年平均値の推移

(一般環境大気測定局)



(単位: ppm)

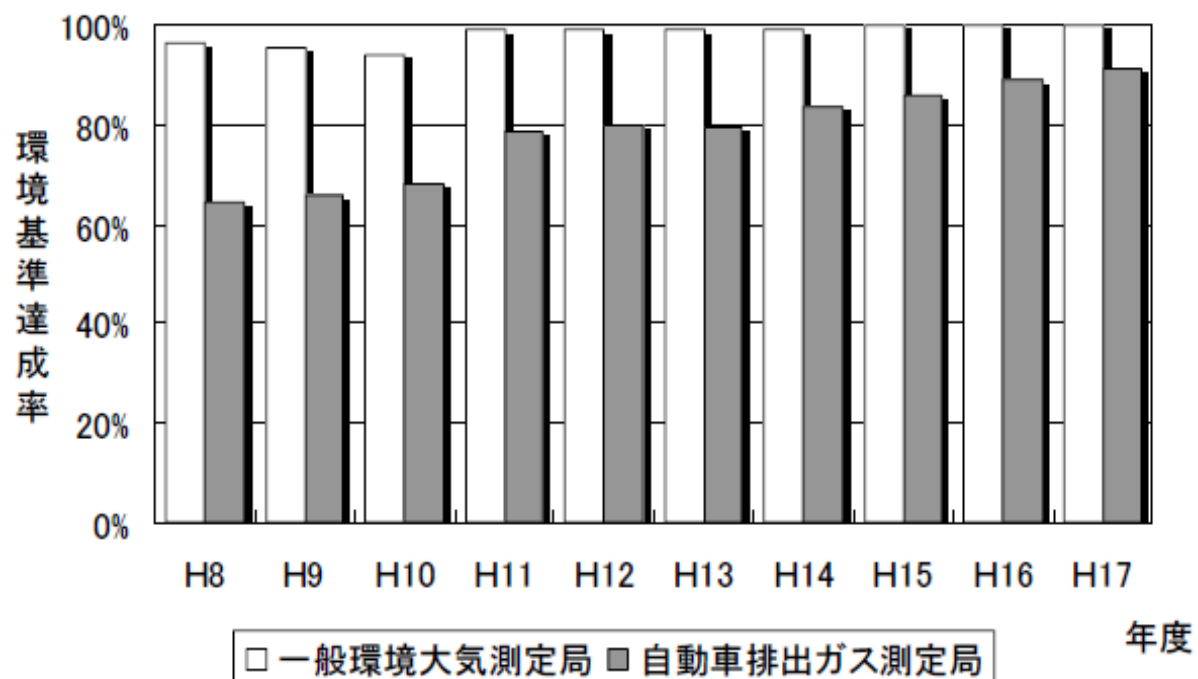
	S45	S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56
二酸化窒素	0.035	0.044	0.028	0.028	0.023	0.021	0.020	0.019	0.017	0.016	0.016	0.015
一酸化窒素	0.000	0.041	0.025	0.021	0.017	0.014	0.013	0.012	0.014	0.012	0.012	0.012
	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5
二酸化窒素	0.015	0.015	0.015	0.014	0.015	0.016	0.016	0.016	0.016	0.017	0.016	0.017
一酸化窒素	0.011	0.010	0.011	0.011	0.011	0.012	0.012	0.012	0.011	0.013	0.011	0.012
	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
二酸化窒素	0.017	0.017	0.017	0.017	0.017	0.016	0.017	0.016	0.016	0.016	0.015	0.015
一酸化窒素	0.011	0.011	0.012	0.012	0.011	0.010	0.010	0.010	0.009	0.009	0.008	0.007

[出典: 環境省ホームページ]

大気中の二酸化窒素及び一酸化窒素の環境基準達成率の推移

		H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
一般環境大気測定局	測定局数	1,460	1,457	1,466	1,460	1,466	1,465	1,460	1,454	1,444	1,424
	達成局数	1,407	1,389	1,382	1,444	1,454	1,451	1,447	1,453	1,444	1,423
	達成率	96.4%	95.3%	94.3%	98.9%	99.2%	99.0%	99.1%	99.9%	100%	99.9%
自動車排出ガス測定局	測定局数	373	385	392	394	395	399	413	426	434	437
	達成局数	241	253	267	310	316	317	345	365	387	399
	達成率	64.6%	65.7%	68.1%	78.7%	80.0%	79.4%	83.5%	85.7%	89.2%	91.3%

(注) 關島津製作所製の環境大気測定用窒素酸化物自動測定機 CLAD-1000/1000A で測定された測定値を含む。



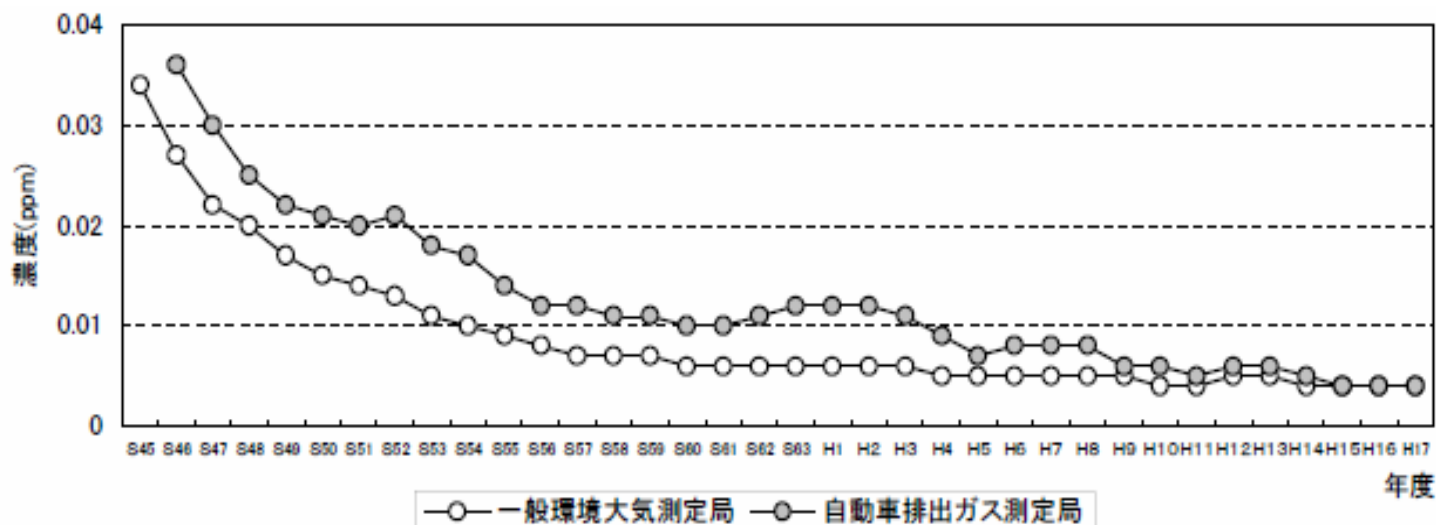
[出典: 環境省ホームページ]

(4) 大気中の硫黄酸化物(SO_x)に係る 環境基準の達成状況

- 二酸化硫黄濃度の年平均値は、工場立地法制定
当時に比し大きく改善しており、近年の環境基準達
成率は、ほぼ100%となっている。

	昭和48年	平成17年
二酸化硫黄濃度	0.020ppm	0.004ppm

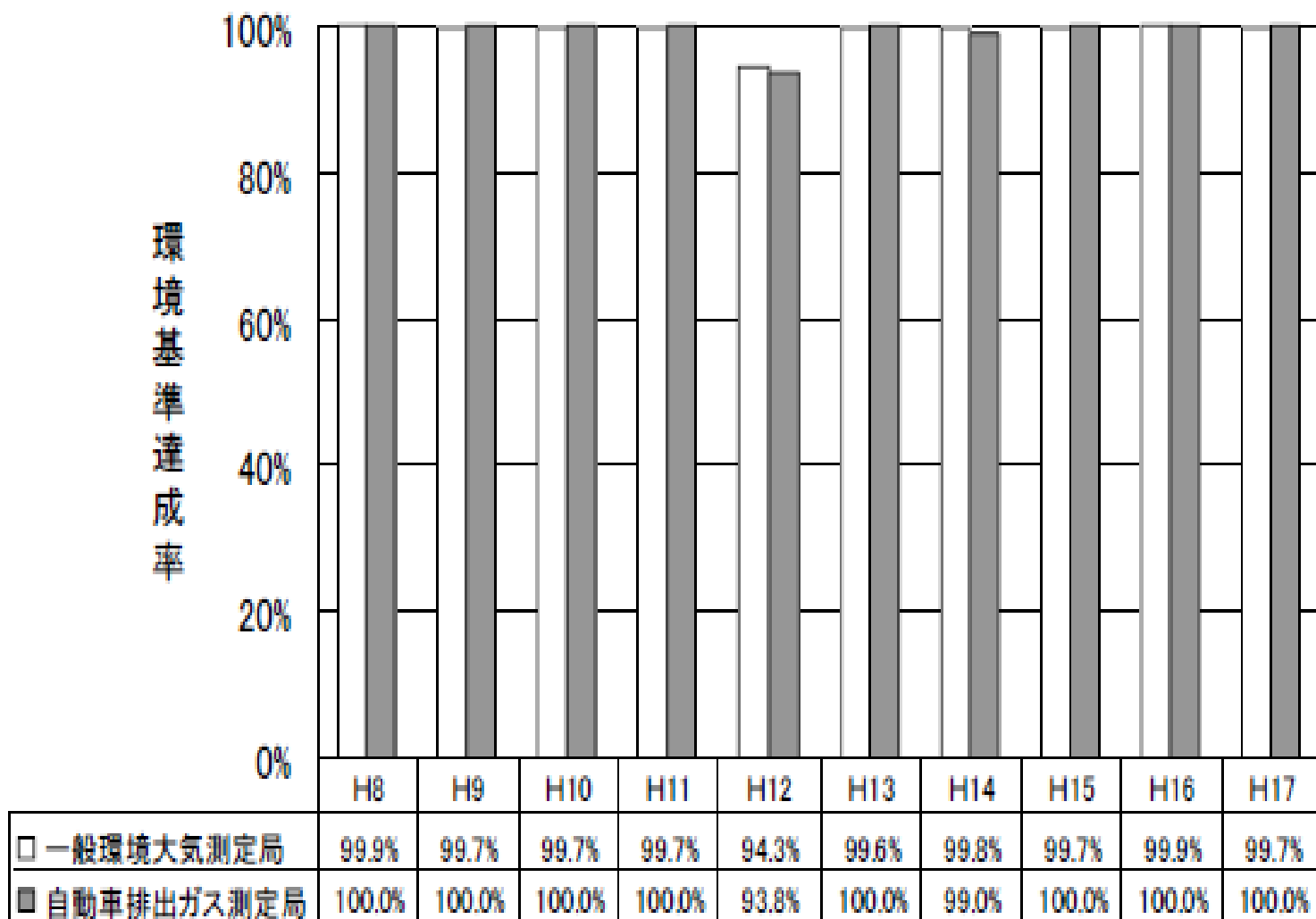
大気中の二酸化硫黄濃度の年平均値の推移



		S 45	S 46	S 47	S 48	S 49	S 50	S 51	S 52	S 53	S 54	S 55	S 56	
一般環境大気測定局	年平均	0.034	0.027	0.022	0.020	0.017	0.015	0.014	0.013	0.011	0.010	0.009	0.008	
	局数	303	468	684	921	1125	1236	1353	1414	1456	1532	1571	1585	
自動車排出ガス測定局	年平均		0.036	0.030	0.025	0.022	0.021	0.020	0.021	0.018	0.017	0.014	0.012	
	局数		5	6	16	24	24	33	40	42	41	44	42	
		S 57	S 58	S 59	S 60	S 61	S 62	S 63	H 1	H 2	H 3	H 4	H 5	
一般環境大気測定局	年平均	0.007	0.007	0.007	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.005	0.005
	局数	1603	1612	1623	1609	1608	1603	1601	1599	1602	1607	1614	1601	
自動車排出ガス測定局	年平均	0.012	0.011	0.011	0.010	0.010	0.011	0.012	0.012	0.012	0.011	0.009	0.007	
	局数	47	53	52	50	50	54	58	65	69	70	78	82	
		H 6	H 7	H 8	H 9	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17	
一般環境大気測定局	年平均	0.005	0.005	0.005	0.005	0.004	0.004	0.005	0.005	0.004	0.004	0.004	0.004	
	局数	1604	1608	1612	1595	1579	1551	1501	1489	1468	1395	1361	1319	
自動車排出ガス測定局	年平均	0.008	0.008	0.008	0.006	0.006	0.005	0.006	0.006	0.005	0.004	0.004	0.004	
	局数	91	94	101	104	103	101	96	95	97	92	89	85	

【出典：環境省ホームページ】

大気中の二酸化硫黄の環境基準達成率の推移










【出典：環境省ホームページ】

(5) 緑視率の定義

(国土交通省「都市の緑量と心理的効果の相関関係の社会実験調査」の場合)

○緑視率の解析

各調査地点における緑視率※2を求める。調査地点の緑視率がほぼ均質な屋上庭園を除き、他の3箇所については、緑視景観の異なるA・B2箇所の代表地点において測定し、その平均値を算出した。

各調査地点のパノラマ写真における緑視	緑視率
	7.8%
	A + B / 2 =
	7.5%
	A + B / 2 =
	2.3%
	A + B / 2 =
	1.1%

※2 緑視率：日常生活の実感として捉えられる緑の量として、特定方法で撮影した写真の中に占める緑の割合。本調査では、デジタルカメラ(35mmフィルム換算で焦点距離36mm)による撮影写真を合成し撮影範囲を360°とした写真に占める樹木・草及び自然的な水の面積の割合を算出した。なお、カメラ設置高さは、標準的な人の視線の高さにほぼ等しい1.5mの高さとした。

- 緑視率：日常生活の実感として捉えられる緑の量として、特定方法で撮影した写真の中に占める緑の割合。
- 本調査では、デジタルカメラ(35mmフィルム換算で焦点距離36mm)による撮影写真を合成し撮影範囲を360°とした写真に占める樹木・草及び自然的な水の面積の割合を算出した。
- なお、カメラ設置高さは、標準的な人の視線の高さにほぼ等しい1.5mの高さとした。

【出典：国土交通省ホームページ】

(6) 生け垣植栽



- 接道部に、生け垣(高さ1.5m以上)を行った場合は、高さ×延長の面積を緑化面積として計上できる。【川崎市緑化指針】

(7) 大景木植栽



- 大景木(施設や地域のシンボルツリー・ランドマークツリー等として、高さ6.0m以上、目通周0.4m以上、葉張2.5m以上の高木)を植栽した場合には、高さを直径とした円の面積を緑化面積として計上できる。

【川崎市緑化指針】

(注)目通周：地上高約1.2mの幹の太さ。
葉張：樹冠の幅。枝張り